

持続可能な開発への挑戦 - ブータン王国『国民総幸福』ケーススタディ

吉川 千晴

キーワード：持続可能な開発、開発政策、幸福、環境倫理、宗教、文化

研究の目的

本研究は、持続可能な開発を促進する手法として、経済発展や高度技術の導入ではなく、人々の倫理観や価値観に訴えかけて行くアプローチを取るひとつの国家的努力の事例を紹介し、持続可能な開発を促進する戦略としての役割を検証する。

本論文では『Sustainable Development (持続可能な開発)』という概念の定義づけと、その解釈がどのようにされているかを分析し、その持続可能な開発概念を取り入れた国家戦略の事例を、ブータン王国の持続可能な開発を実現していく上で人々の『幸福』を最優先とする国家開発戦略を先導する『Gross National Happiness』と言う独自の理念のケーススタディを通して紹介する。

持続可能な開発概念

この概念は1987年 WCED によって公的に定義付けられ、1990年代以降国際舞台で頻繁に使用されるようになり、たちまち開発分野の議論に多用されるようになった。WCED で提唱された定義は現在も最も引用される定義となっているが、実際、持続可能な開発とはどのような概念なのかは、その解釈や理解の相違が存在し明確ではなく、促進・遂行方法は国や機関により異なっている。このような相違が存在する中で、概念の理解とその促進手法を検証することにより、ふたつの方向性：『Development aspect (開発視点)』と『Sustainability aspect (持続可能性視点)』が見出される。後者の視点は人々の生活の持続可能性の実現を強調し、人々の心や社会に存在する倫理観や価値観は持続可能性を促進する上で必要不可欠な役割を持つと考える。

ブータン王国の『Gross National Happiness (国民総幸福)』

GNH のケーススタディは、前述した持続可能性視点を持つ政策の根本的な特徴を探り、そして『国の文化、伝統、宗教などにより形成された価値観や倫理観が社会に基盤として存在したからこそ、持続可能な開発を促進する理念が生まれ、国家戦略ガイダンスとしての役割を担う事ができた』と言う仮説を証明する役割を持つ。

GNH はブータン王国の開発戦略の方向性を示し、先導する理念であり、その最優先事項として人々の『幸福』の促進が挙げられているおり、その実現へ向けて、4つの支柱(価値観と文化の保全・促進、公平な社会的・経済的發展、良いガバナンス、自然環境保護)の促進を戦略の中心的手法としてあげている。この理念は、自然や社会の幸福を尊重し、人間は生態系の一部であると位置づけるブータン王国の人々の、仏教思想を根源に持つ宗教心や伝統文化からなる倫理的側面に、持続可能な開発の促進を一部依存しているものである。

結論

ブータン王国において持続可能な開発と同じ要素を持ち、生活の持続可能性と人々の幸福を促進する GNH は、強い宗教基盤が社会に存在し、結果、人々の間に共通の倫理観や価値観が形成されていたからこそ、提唱、促進、そして国家の開発戦略を先導する理念としての役割を担う事ができている。

このような、持続可能な開発を促進していく性格を持つ理念からなる政策に見る教訓は、他国・地域(特に経済的・技術的發展は比較的遅れているが、社会に共通の倫理観や価値観が根付いており、持続可能な開発実現に向けて献身的な国・地域)に応用可能であり、今後持続可能な開発の実現へ向けた議論への貢献が期待される。